

古平町

平山 恵

1. 概要と歴史

1.1 地名の由来と歴史

アイヌ語のフレピラ hure-pira[赤い・崖]、フルピラ hur-oira[丘・崖]など、町内の地形に基づいた説がある。

文治元年(1185 年)、藤原の泰衡が源頼朝に打ち滅ぼされた後、藤原の残党が蝦夷地に逃れてきて定住したのが始まりだといわれている。享保 16 年(1731 年)にはすでに「古平」という記述があることから、その当時から古平という名称は存在している。江戸時代初期はニシン漁で栄え、嘉永 5 年(1852 年)には西蝦夷地第 1 位というニシン漁獲量 21055 石を記録した。明治に入って開拓使出張所がおかれるなど東積丹地域の中心地として発展を続けたが、ニシンの漁獲が激変した昭和 30 年ごろを境に町の人口は減少傾向にある。なお 2005 年に行われた平成の市町村大合併の際、古平町は市町村合併を行っていない。

1.2 古平町の町章

古平町の頭文字「古」を図案化。上部の両翼は伸びゆく町勢と平和を象徴し、下部の円は円満融和と古平湾を表現している。町章によって、古平を豊かにして明るく跳躍する姿と発展を意欲的に表現している。

2. 地理と気候

2.1 古平町の地理

古平町は積丹半島の東側中央部、積丹町と余市町に隣接した位置している。余市町から古平町までの区間に鉄道はなく、公共交通としては余市小樽間の定期バスが 1 日 17 往復解説されている。広域幹線ルートは国道 229 号であり、小樽市までは 36.1km、車利用の所要時間は 1 時間弱であり、札幌までは 1 時間半となっている。

北緯 43 度 17 分 32 秒、東経 140 度 31 分 35 秒に位置する。行政区域面積としては 188.42 平方キロメートルあるが、山林が 167.73 平方キロメートルと全体の 89%を占める。積丹半

図 1 カントリーサイン



出典：北の道ナビ

図 2 古平町の町章



出典:古平町公式HP

島を形成する山列に源を発する古平川が町の中央を北流し、その流域が町の大部分を占めているために、広い土地の中があるにもかかわらず比較的集約されて市街地、集落が形成されている。古平川河口の左岸に中心市街の浜町があり、そこから北に続く港町・本町にかけての海岸線は小湾を形成しており天然の良港となっている。その他の海岸線は断崖が続き、奇岩も多く景勝地となっている。

図3 古平町の位置



出典：Wikipedia

図4 古平町の位置

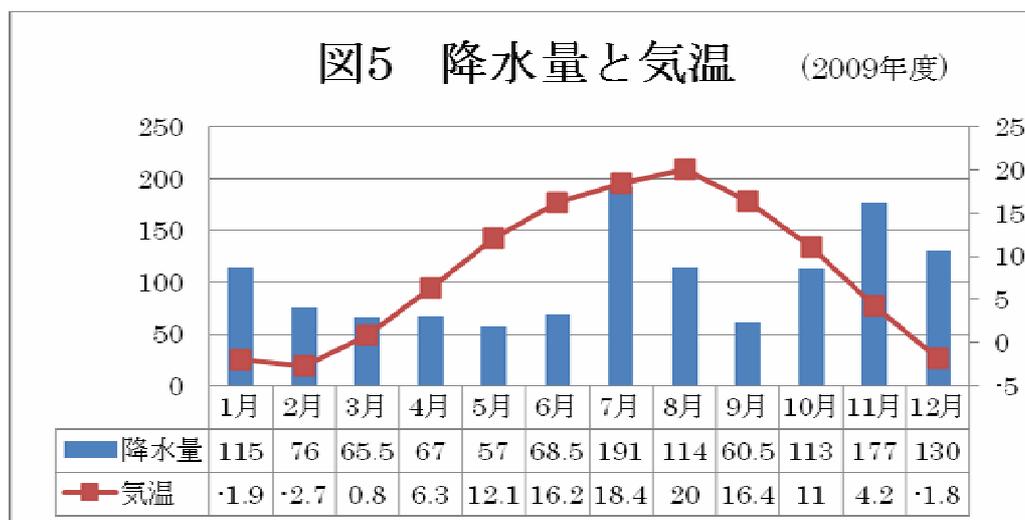


出典：古平町公式 HP

2.2 古平の気候

古平町は、北西からのモンスーンが吹いているときは降水日数が多くなり、風が強い時や南東からのモンスーンが吹いているときは降水日数が少なく、さらに気温は年間を通して寒暖差が激しくないという、日本海側気候（北海道型）に属している。

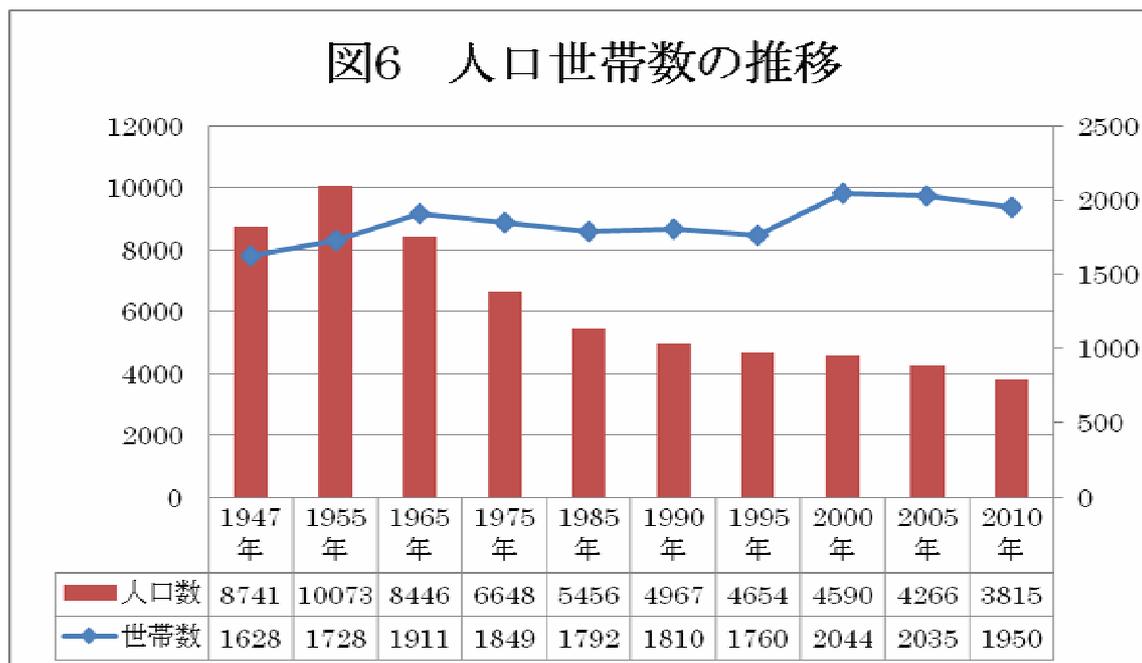
図4にあるように、夏の平均気温は20度、冬も-3度を下回らないことから夏は涼しく冬はさほど寒くないという、非常に住みやすい地域である。しかし冬季の降雪量が多い豪雪地帯であるというのが難点なところである。



出典：気象庁 HP

3. 人口世帯数の推移

総務省の国勢調査によると、1935年から1955年にかけて人口は増加傾向にあったのだが、1955年以降は減少傾向にあり、2010年には最も多かった1955年の3分の1近くにまで減少している。これは少子化や過疎化が影響していると考えられる。また、人口数は減少しているのに世帯数は人口の最盛期よりも増えていることから、高齢者の核家族化が進んでいることや単身世帯の増加の為に世帯数が増えているものと推測できる。



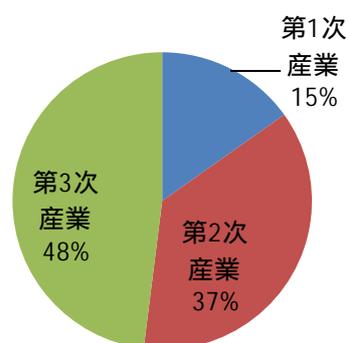
出典：古平町 HP

4. 産業

図7 産業別人口（2010年）

4.1 産業別人口

古平町の産業人口は、第1次産業人口が313人、第2次産業人口が761人、第3次産業人口が992人である。古平町は漁業の町といわれるように、第1次産業は漁業従事者が大半を占めている。また第2次産業は水産加工業従事者が大部分を占め、主にタラコ製造加工従事宿泊施設や飲食施設が含まれる。第3次産業の割合は高いが、旅館経営者の衰退等が今後懸念されている。



出典：農林水産省 HP

4.2 古平町の漁業

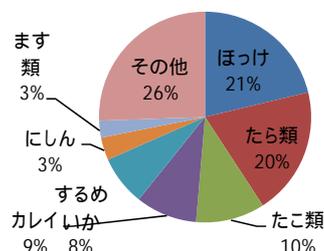
古平は漁業の町として栄えた町である。江戸時代に西蝦夷地漁獲量 1 位となり、また大正期にはニシンの水揚げ量 7 万石にまでなったが、昭和中頃からニシンが獲れなくなったために遠洋漁業を行うようになった。ニシンやエビ、つぶなどを獲る遠洋漁業にて漁業が繁栄していたが、昭和 51 年に経済水域が定められてからは遠洋漁業が衰退し、沿岸・近海漁業に転換した。

現在の主な漁獲物は、ほっけ、たら類、たこ類などで、これが全体の半分を占める割合となっている。しかしかつて西蝦夷地漁獲量 1 位を誇ったニシンの漁獲量は、全漁獲量 4214t のうちの 146t ほどに落ち込んでいる。全

体の 20% を占めるたら類を加工することで生産される「タラコ」の製造は、2000t であり、これは全国のタラコ出荷量の 10% を占めるほどの割合である。これほどの漁獲高を誇り、漁業に力を入れている古平町は、近年の漁業離れとは縁遠く、60 歳以上の漁業就業者は多いものの、60 歳以下、特に 45～49 歳にかけてと 25～29 歳にかけての漁業就業者数が多い。

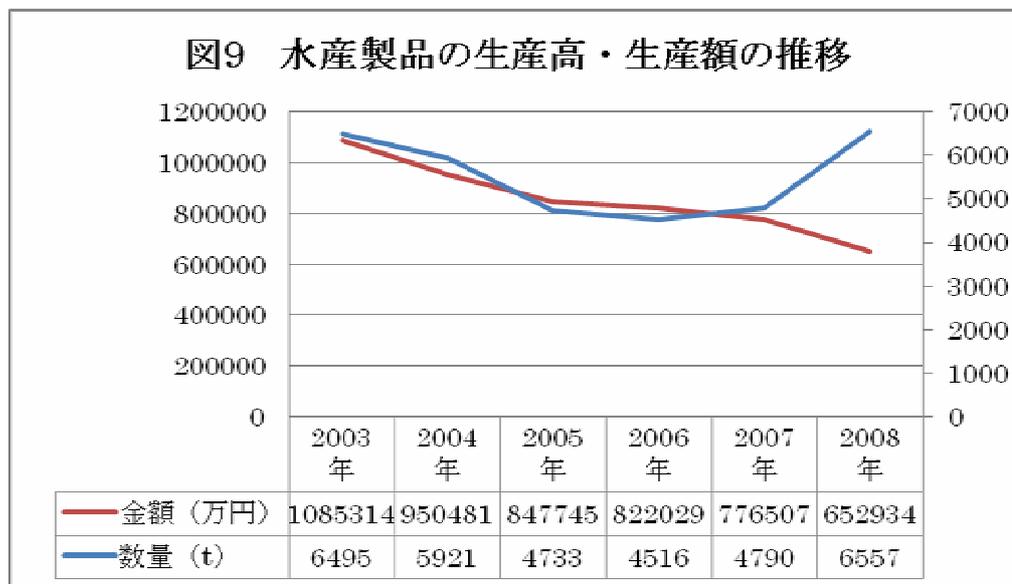
古平町の水産製品の生産高は減少傾向にあったが、平成 20 年に増加し、5 年前の数値以上の生産高に回復している。一方、生産額は年々減少傾向にある。これは、水産資源の減少のために、生産高が割合低い外国からの低価格輸入による魚価安からなるもの、また経済不況から来るデフレの影響の為に生産額が減少していると考えられる。

図 8 魚種別漁獲高



出典：農林水産省 HP

図9 水産製品の生産高・生産額の推移



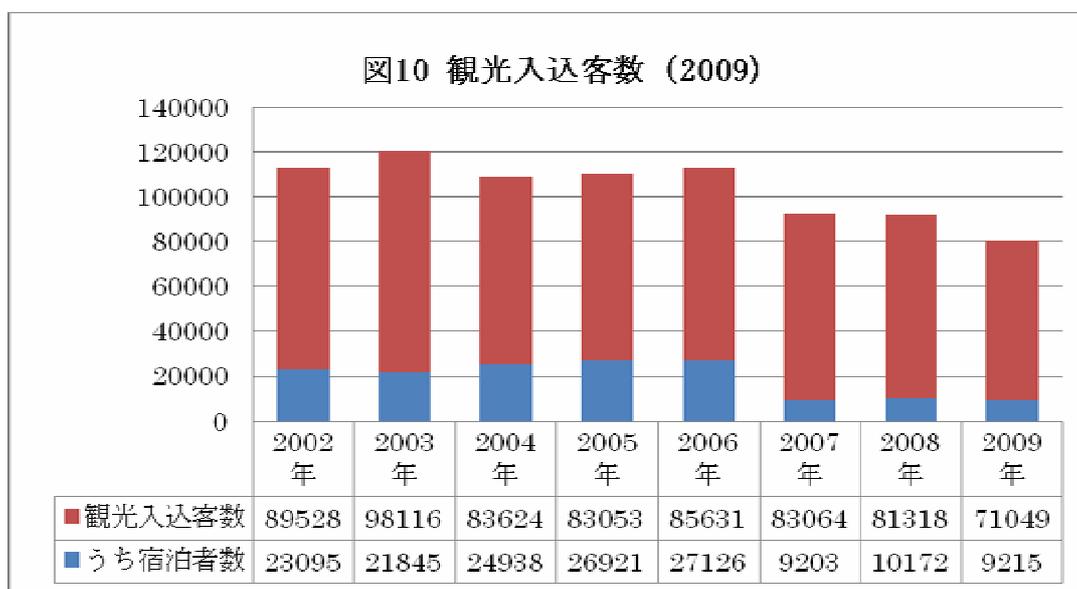
出典：農林水産省 HP

5. 観光

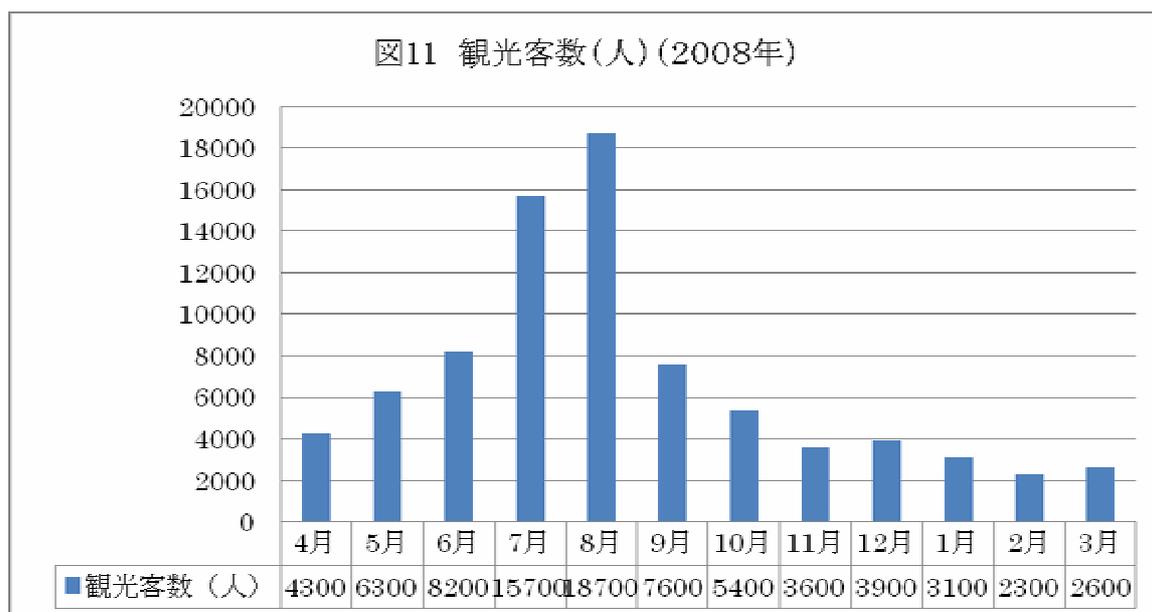
5.1 観光客数

図 10 から、観光客数・宿泊者数ともに年々減少傾向にある。原因は、周りのニセコやルスツリゾートなどの大型宿泊施設や観光スポットへの客の流出が推測される。

近年では家族旅行村や温泉、祭、古平漁港青空市場などにより、観光客獲得に力を入れている。図 11 から、家族旅行村や祭のシーズンである 7 月から 8 月にかけてが最も多いことがわかる。今後は、冬季の観光客数増加を目指すための古平の魅力を発信してもらいたい。



出典：古平町 HP



出典：後志支庁 HP

5.2 観光スポット

5.2.1 家族旅行村

高い丘のうえに広がる古平家族旅行村は家族で快適に、気軽に過ごせるアウトレジャーのとおきおきの施設である。美しい緑の木々に囲まれ、新鮮な空気と潮風の香り、海を眺めながら心地よくキャンプを満喫できる、さわやかな高原リゾートである。

5.2.2 セタカムイ岩の伝説

昔、ラルマルキという村の若い漁師が、一匹の犬を飼っていた。漁師は犬をかわいがり、犬は漁師に懐いていた。ある時、海が久しぶりになぎになり、漁師は仲間とともに沖へ漁に出た。犬はいつものように浜辺で主人の帰りを待っていた。ところが、朝は穏やかであった海がいつのまにか波が高くなり、日暮れとともに暴風となってしまった。村人は海辺でかがり火をたいて無事を祈った。やがて、難を逃れた漁師が浜に帰ってきたが、犬の主人はついに帰ってこなかった。暴風雨は何日もつづいたが、犬は浜辺で待っていた。

そしてある夜、悲しげな犬の遠吠えが、いつまでも聞こえたという。翌朝、暴風雨はやんだが海辺に犬の姿はなく、岬に犬の遠吠えをした形の岩が忽然とそそり立っていた。人々はそれを「セタカムイ」(犬の神さま)と呼ぶようになった。

5.3 イベント

5.3.1 古平漁港青空市場

毎年、6月から8月にかけての3ヶ月間、各月1回行われている市場である。古平漁港の特設会場において、古平で獲れた旬の魚介類をはじめ水産加工品や農産物などを直売しているため、「古平の味覚」を味わうことができる。

5.3.2 猿田彦の火渡り

古平町に伝わる神事である。猿田彦とは神様の道先案内人であり、渡御の祭には行列の

図 12 家族旅行村



出典：古平町 HP

図 13 セタカムイ岩



出典：古平町 HP

図 14 古平漁港青空市場



出典：古平町 HP

先頭を歩き、鼻高々と歩き行列の進行を司るものである。琴平神社例大祭の際、大漁と海の安全を願い天狗装束の猿田彦が火の上を渡って歩く迫力のある夏の一大イベントである。

参考 HP

古平町公式 HP :<http://www.town.furubira.hokkaido.jp/>

Wikipedia :<http://ja.wikipedia.org/wiki/>

わがマチわがムラ :<http://www.machimura.maff.go.jp/>

北海道庁 :<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/>

気象庁 :<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>

農林水産省 :<http://www.maff.go.jp/>